資料２

第３期食と農業農村振興計画の推進に対する地区部会からの意見・提言等

Ⅰ　次代へつなぐ信州農業

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
【施策展開１】 次代を担う経営体の育成と人材の確保		
1	農業の規模拡大に伴い、帳簿や記録作成など事務作業も増加し、農業に手が回らなくなる可能性も出てくる。農作物を作ること以外の部分の勉強も出来るように支援してほしい	南信州
2	後継者がいないと言われているが、農業法人などの民間業者には非農家の若い人も集まってくると聞いている。農業は家族経営で閉鎖的だが、家族経営から脱却して共同化、法人化することによって人が定着する	南信州
3	人・農地プランの実質化に向けた市町村の取組みへの県の支援を希望	松本
4	家族農業ではなく、開かれた法人や開かれた農業ができる状況があれば、認定農業者や農業士など、若い人たちの意見が活かされた農業経営ができて良いと思う	長野
5	新規就農者が農地を求めても条件のよい農地は少ない。農地中間管理事業等で貸したい農地はあっても、それは条件的に使いにくい農地が多い	北信
6	将来の地域農業・農地をどうするのかといった課題に対して、後継者がいない農家には、１軒１軒回って、将来農地をどうするのかを聞き取り、機構に預けるよう説得していくようなことが必要	北信
7	農地中間管理事業法の見直しにより、円滑化事業から中間管理事業に一本化されるが、円滑化からの移行には様々な課題があると思われる。スムーズに移行するためのシステム作りが必要	北信
8	若い農業者に空いている農地情報をもっと流していく仕組みづくりが必要	北信
9	高齢化等による地域の担い手不足は深刻。外国人技能実習制度の活用等も行っているが、制度を活用しやすくしてほしい	上田
10	市田柿の作業が集中する中で、季節的に人手が不足する。シルバー人材の研修もしているが、そこも人がいないのが現状	南信州
11	新規で参入したが条件の悪い農地が半分以上だった。優良農地で上げた利益から、農地改良や機械への投資を進め、５、６年目から人に跡を継がせられる経営になった。成長を続けられるような資金繰りができるかが鍵。資金繰りへの支援がもっとあっても良い。また、新規参入者の側も、苦しい時期のストレスに耐えながら経営を確立させていくセンスが必要	諏訪
12	農業をやめていく人の農地・施設を次の担い手へマッチングしていく取組をもっと進めてはどうか	諏訪
13	新規参入者の住宅確保について、空家対策と絡めた支援を充実すべき。空き家の中を片付けることがなかなかできず、課題となっている	諏訪
14	ＪＡインターン制度等を活用して新規就農者が増えてきている。経営が安定するよう農業次世代人材投資事業等を活用し、支援をしっかりお願いする	上伊那

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
15	農地の境界がわかりづらく農地集積のネックとなっている	上伊那
16	新規就農者を確保することが必要であるが、この定着が重要であり、２年目３年目の新規就農者を年１回でもいいので巡回し、農業のやりにくさや問題点を確認する必要がある	南信州
17	昨年の実績で、Ｉターン者が４名いるが、行政の指導力に差がある。新規就農里親制度等の支援を受けてから就農すれば定着してもらえる	南信州
18	果樹農家の親元就農者との懇談会を開催したところ、今の状況を何とかしたいという意欲が高かった。若い人の意欲を育てていく必要がある。世代交代がうまくできるところが残れるので、若い人を育てていきたい	南信州
19	担い手の確保が重要であり、就農して定着してもらうことが大切。県の協力をいただきたい	南信州
20	給付金をもらっている人はチームで支えているが、給付金をもらわず一人で頑張っている人への支援が必要	南信州
21	農業研修生を受け入れているが、農家（里親）への助成が少ないので増額してはどうか	南信州
22	子供達を対象に食育活動を行い農業への理解を深めているが、親世代の農業への気持ちを変えないと子供達が農業に就かない	松本
23	消費者側の意見として、後継者不足は外国産の農産物輸入に直結するので、県が行っている後継者育成支援策を継続されたい	松本
24	新規就農者に対する支援策は手厚いものの、親元就農への支援が不十分。一定の基準を設ける中で、親元就農者への支援を検討されたい	松本
25	農家子弟への指導に力を入れ、より高度な農業経営ができるように誘導していただきたい	長野
26	売上が以前はリンゴ中心であったが、今はブドウの方が上という状況になっている。このような中、こういう後継者をどうやって育成していくかが今の課題だと思う。特に若い方にどうやって農業をやってもらうかが大きなポイントとなると考えている。若い方が農業やってお金が取れて生活できるという環境をつくっていくことが大事だと思う	長野
27	これまでどおり新規就農者へのフォローや支援はありがたい取組なので引き続きお願いしたい	長野
28	農業次世代人材投資事業について、本年度要望に対し、内報額が削減されている。 果樹の新規就農者は、苗木を植えてから一定の収入を得るまでに数年がかかる。150万円を前提に就農計画を立てており、当てにしていた給付金がなくなる影響は非常に大きいため、しっかりと予算の確保をお願いする	北信
29	新規就農者の住居について、新規就農者が一軒家を求めても物件がなく、アパート住まいを余儀なくされている。農業機械を置く場所に苦慮する実態もあり、新規就農者の住居対策が必要	北信
30	新規就農者と先輩農業者とのコミュニケーションづくりや里親の育成について、更なる支援が必要	北信
31	仲間を見て自分も就農したという若い農業者がおり、若い仲間同志の繋がりや広がりを感じている。ぶどうが儲かっており、就農したと聞いているが、就農後も安定収入が得られて生活ができるよう、支援してくことが必要	北信

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
32	新規就農者を増やしていくには、男女平等の文化をもっと作るべきではないか	佐久
33	行政の指導で集落営農を法人化した組織について、高齢化により運営負担が大きくなっている。他地域の事例も踏まえ、今後の方向性について指導をお願いしたい	諏訪
34	定年して農業をやりたい人が機械を使えないので諦めている例がある。香川県ではマルチ引きなど機械作業を請け負う体制があったが、長野県でもこうした体制があると良いのでないか	諏訪
35	人･農地プランについて、農地はあるが人がいない。認定農業者も高齢化している。どう考えていくか。集落営農法人の方向か。	上伊那
36	集落営農組織が担う農地は地域の条件不利地が多いうえに、構成員が高齢化しており役員のなり手がいない。地域営農を継続するうえでこのような集落営農組織をどのようにしていくのかが課題となってくる	松本
37	人がいない中で、主婦や定年者を活かす経営スタイルが出来ないか	南信州
38	フィンランドでは女性が安心して子育てできる仕組みの「ネイボラ」が実践されているが、専業・兼業問わず農業に頑張っている女性への充実した支援策を希望	松本
39	農業現場の変化（高齢化、大規模農家の経営中止、後継者の考え方、結婚相手不在等）がとても速く、結果として農地を守るのが精いっぱい、集落営農組織の経営が赤字となっている。生計が成り立つ農業経営の育成に向けた食農計画となるよう取組んでいただきたい	松本
40	農業は地域との関わりが大きい。農業士など、たくましい人材を確保してほしい	上田
41	農業士のメンバーが減っているので、会員確保に向けた積極的な呼びかけや新規就農者とのコミュニケーションの機会づくりなどが必要	北信
【施策展開２】 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産		
42	農業振興センターでもモデル園として新品種の導入や果樹棚設置への助成を行い、生産性向上、コスト低減の支援をしている。頑張っている人に意欲を持って取り組めるよう支援していく必要がある	南信州
43	条件の悪い所でも使えるＩＣＴ技術の情報がほしい	南信州
44	高齢化が喫緊の課題。自動草刈機でベンチャー企業とタイアップするなどスマート農業を推進されたい	上伊那
45	「スマート農業」を考えるならば、ある程度まとまった土地で大規模にできる園地などを考えていく必要がある	長野
46	高密度播種育苗に聞きかじった情報だけで取り組む農家もいる。目で見られるよう実証ほの設置数を多くしたらどうか	上伊那
47	「風さやか」を推しているが、美味しいお米はコシヒカリのイメージが良く負けてしまう。「風さやか」の販売戦略として、大消費地向け、県内消費者向けなのかはっきりさせた販売戦略をされてはどうか	松本

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
48	酒米の新品種「山恵錦」を栽培している。良い品種と思われるが、美山錦等に慣れ親しんだ杜氏の評価が気になる。杜氏に評価をいただければ、生産者も安心して生産を拡大できる	北アルプス
49	野菜の相場環境が悪く止むを得ず廃棄処分にする場合、農家等の心情を考えるとただの廃棄ではなく、他への活用ができないか	佐久
50	鮮度保持施設は、脱フロンの問題が直面しているので、もっとスピード感を持った国庫事業等の推進が必要	佐久
51	かつては「北信州はアスパラガス日本一」という自負があったが、連作障害や疫病の関係で生産量は減少。 実行計画に沿って排水や防除対策に力を入れ、少し回復してきていると思うが、引き続き安定生産への取組をお願いする	北信
52	市田柿が地域の主要品目であり、複合経営の推進のため、アスパラ以外の品目でも指針を示してほしい	南信州
53	ＪＡの共選施設の整備・更新等は生産基盤づくりに不可欠だか、国の補助事業では更新は対象にならない。事業見直しを希望	松本
54	新たに地域を担う営農組織ができたが、農業機械が高い。農業機械導入に対する支援策の充実を希望	松本
55	畜産農家は、規模拡大しようとしているが、獣医師が不足していてできない状況にあるので、県がリーダーシップをとって獣医師を確保する必要があるのではないか	佐久
56	受精卵移植（ＥＴ）技術などを使い、酪農振興と併せて和牛繁殖も推進されたい	上伊那
57	地域マルキンの地域算定値を実現してもらったが実態の数値とかけ離れている。事業活用に向けた地域算定値の見直しを希望	松本
58	諏訪湖の富栄養化の問題もあり、以前から化学肥料の削減に取り組んできて、窒素成分量は以前の半分になっているが消費者に分かってもらっていない。しっかりＰＲしてほしい	諏訪
59	「環境にやさしい農業」については、どのほ場でもできる技術ではない。取組希望者へのきめ細かい指導が必要	諏訪
60	「環境にやさしい農産物認証」を取っているが、認証のメリットが見えない。消費者へのＰＲについて支援してほしい	諏訪
61	病害虫発生予察情報が迅速に広く伝わるようにお願いする	上伊那
62	海外の人は、無農薬・オーガニックを求めているので、そうしたニーズに向けた生産も必要	北信
63	「風さやか」の栽培の広がりも見受けられ、計画の実績は出てきている。また、シナノリップ、麗玉・シナノパール、クイーンルージュなど新しい品種が出され、県外の量販店等は注目している。 マーケットに長野県のいろいろな農産物が出ていくことは、長野県の活性化につながるので、新品種の開発を継続して欲しい	北信

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
64	年々、農業者の高齢化が進み、果樹をはじめ果菜類の生産も減少してきている一方で、消費者の国産志向は強く、今後も農業・農村の魅力は高まっていくと考える。地域では様々な農産物の生産が可能で、営農は隣の市町村まで行ってすることも可能。農業者も農業経営も柔軟な発想で変化に対応し、魅力ある農業・農村づくりを進めていくことが必要	北信
65	中山間地域の農業を維持するため、施策の充実や儲かる経営モデルを示すべきではないか	佐久
【施策展開３】 需要を創出するマーケティング		
66	消費者目線に立った市場開拓を進め、生産者への提言が早くできると良い	南信州
67	「需要を創出するマーケティング」に取組むうえで、自らの経営で生産される農産物が、実需者からオーダーされるようなマーケティングとなるよう、商談会に若い担い手が参加できる機会を増やされたい	松本
68	市場として地域農産物の高値販売に向け、予め農産物の品目、数量等の産地情報を提供していただくことはできないか	松本
69	花豆等、大北地域の特産品が急速になくなっているが、そうしたものほど今注目され、ニーズが高まっている。そうした品目にも光を当てて、振興して欲しい	北アルプス
70	果物の消費について、60歳代以上の多く摂取する世代の消費量が減少し、30ｇ～40ｇしか食べない若い方が中心となると需給バランスが崩れ売れなくなる。都会の社員食堂では果物を積極的に出すようになってきている。こういう需要の掘起こしは良い取組みだ	長野
71	都会だけでなくおひざ元から、いかに若い人たちのライフスタイルの中で果物を摂るという方向に誘導できるかも大きな課題で、今から手を付けないといけないと感じている	長野
72	夏のきのこフェアは、夏期のきのこ消費の落ち込みを踏まえた取組で評価できる	北信
73	国内だけでなく海外展開による市場拡大が必要	上田
74	ワイン産業の発展に期待。消費拡大や地域振興(誘客)について連携をお願いする	上田
75	いいものはどこへ出しても売れるが、スソものに付加価値を付ける必要がある	南信州
76	高齢化が進む中で、手が入らずいいものが出来にくくなっている。スソものを使える産業が出来れば良いのではないか	南信州

第３期食と農業農村振興計画の推進に対する地区部会からの意見・提言等

Ⅱ　消費者とつながる信州の食

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
【施策展開１】 本物を味わう食と食し方の提供		
77	食し方には、地域ごとに特徴があり違って楽しみがある方が面白いのではないか	南信州
78	若い人でも農業ができる、作ってもらった農作物でこんな食べ方ができる、地元の添加物のない商品は美味しいという風に子供たちに広めていきたい	長野
79	直売所は高齢者対策・荒廃農地発生防止にも貢献しているが、集客のためには色々な機関との連携が必要	上田
80	病院でも人手不足で冷凍野菜を使う場面もあり、高齢世帯向けを考えても、手間が無く使えるもののニーズはある。地元産カット野菜がほしい（価格面で厳しいか？）	上伊那
81	学校給食は量、規格等対応が難しい。取り組みやすい配達システムができないか	上伊那
82	道の駅（直売所）は県外産、外国産も販売しているところがあり、単純に売上額を示しても信州の食の拡大にはつながらない。このため、直売所の「長野県産の農産物の販売比率」の調査も必要ではないか。	木曽
83	学校給食への県産農産物提供において冬場の品薄が課題と聞いているが、その考えを改め、他県産の農産物を相互に提供し合う仕組みを取入れられないか	松本
84	地消地産に向けて、静岡県で成果を収めている「野菜バス」の取組や、地域で行われている誘客促進に向けたモニターツアーへの活動支援を希望	松本
85	地元のフルーツを使ったジャムづくりやホテル経営などの事業に取り組んでいるが、私たちの事業は農家さんが作ったものなくしては成り立たない。農業者はありがたい存在であり、農業は守り成長させていって欲しい産業	北信
86	地元の農産物直売所が盛況なのは愛されている証拠	南信州
【施策展開２】 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案		
87	小学生農作業体験作文・図画コンクールは良い取組。子供が祖父母や父母の姿を見て農業に親しみ続けることが大切。ぜひ続けてほしい	諏訪
88	食育・花育は地道でありながら地に足を付けた取組であり、ぜひ継続をしてほしい	諏訪
89	花を買う文化が根付くよう、花育にも今以上に力をいれるべき	諏訪
90	地方毎に伝統料理があり、信州らしさを発信できればすばらしい	南信州

91	食育の関係で、子どもに地元のものを食べることが体に良いということなどを伝え、地域食材の活用推進を周知してほしい	南信州
92	食育を進めることが大切であるが、学校の先生は興味のある人はやるが、ない人はやらない	南信州
93	おいしい果物や生産物がいっぱいある長野県をもっと学校給食でＰＲして、学校給食における県産食材の利用割合の目標以上の達成を目指して子供たちにおいしい食材を提供して欲しい	長野
94	食育推進計画があり、ＪＡ南信州の取組みが充実しており、食育推進大会で多くの事例が出されていて素晴らしい。ＪＡだけでなく、地域で取組めればいい	南信州
95	高齢化社会の中、高齢者の低栄養が問題となっている。シニアを対象とした食に係る講演会等の開催が必要なのでは	松本

第３期食と農業農村振興計画の推進に対する地区部会からの意見・提言等

Ⅲ　人と人がつながる信州の農村

番号	地区部会からの意見･提言	地区名
【施策展開１】 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり		
96	シカ等の鳥獣処理に如何にお金がかかっているかということを一般の人にも知ってもらう必要があるし、安全・安心なジビエをもっと食べてもらうため、学校給食での利用やＰＲ等が必要	佐久
97	集落の周辺にも荒廃農地の増加が目立つ。定年退職者やＵターン者も増加しており、再生等の活動を担うことを検討してほしい	上田
98	新規参入者のための農地確保が大変。条件の悪いところしかない。行政が農地整備を行う場合もあるが、排水対策や礫の除去にも配慮願いたい。優良農地確保のための施策を拡充すべき	諏訪
99	農家子弟は代々の農地があるからよいが、新規参入者が借りられる農地は条件の悪いところが多く、気の毒と思う。農業で生活できるようになるか心配。優良農地の確保対策は大切	諏訪
100	優良農地を確保していくための農地政策をきちんと整備する必要がある	上伊那
101	土地改良事業で整備した施設の老朽化が課題となっている	上伊那
102	防護柵を更新するための事業を要望	上伊那
103	中山間地の農業が楽になるよう思い切った予算措置をしてほしい	南信州
104	有害鳥獣対策に対する被害軽減への支援を継続してほしい	松本
105	鳥獣被害は未だ深刻であり、特に河川敷で広がっている。国や関係機関と連携して、対策に漏れがないようお願いしたい	北アルプス
106	高齢化が進み、荒れ地が増えてきている。後継者がいないということが一番の問題なのだろうが、荒れている畑の利用を進めてほしい	長野
107	河川敷の農地利用について、隣の荒れている土地から耕作している畑に草がどんどん侵入し効率が上がらない。どうにかしなければと思う	長野
108	野生鳥獣被害の対策で侵入防止柵の補助があるが、高齢化により設置、維持・管理する人手がない。また、侵入防止柵を張っても、その末端や山の反対側に移動し、被害が起こるという実態もある。全体的な駆除をお願いしたい	北信
109	鳥獣は保護しなければいけないことは理解できるが、もう少し柔軟に捕獲できるようにできないか	北信
110	緩衝帯の草木伐採などに森林税等を活用するなど、様々な交付金を活用して複合的に野生鳥獣対策をしていくことが必要。また、豪雪地帯では、電気柵の管理が困難であるため、それに代わる対策が必要	北信
111	農地所有者が農地を貸し出す際に、そっくり出すのはありがたいが、所有者も地域社会の一員として一定の義務（畦畔管理等）を担ってもらうことが重要。それにより規模拡大が進む	上田

112	人口の減少と高齢化が進んできているので農道・水路等の維持管理に対する助成措置の充実と要望に沿った予算の確保をすべきではないか	佐久
113	多面的機能支払事業は都市部のカバー率が上がらない。事務処理も複雑である。カバー率向上のため市町村等への支援をお願いしたい	上伊那
114	多面的機能支払事業等を受けて積極的に活動してきた地域が、高齢化によりやむなくリタイアしている。そうした現実を御理解いただき、鳥獣害対策等、山間部の農業振興に力を注いで欲しい	北アルプス
【施策展開２】 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持		
115	5年先10年先を見据え、次世代へ託すことのできる地域づくりが重要	上田
116	中山間地直接支払事業は継続すべき	上伊那
117	高齢化で管理できなくなったぶどう園を地域の人が共同で管理した例がある。助け合い（ゆい）の農業で高齢化していっても安心では	南信州
118	家族だけでは出来ない状況もある。みんなで助け合うことや、人を雇うこともひとつの技術。規制法令の問題もあり、セミナー等で人の使い方をやってほしい	南信州
119	老後に2,000万円が必要になるという話がある中で、この話は千載一遇のチャンスと捉え、“年金”プラス“農業収入”プラス“生きがい”とういう形が良いので、強くアピールしていく必要がある	南信州
120	手が回わらなくなった園地をみんなで作業したが、短時間でできた。大勢で作業する「ゆい」のような形がいい。地域で支え合うことが大切	南信州
121	長野県では公民館活動が活発で、ここからコミュニティが生まれる	南信州
122	中山間や多面的の交付金は、４期への切り替えの時に面積が減ってしまう。農家は事務負担が大きいので、農家でない人に参加してもらいたいが、どう巻き込んだらいいのか。事務の軽減も必要なので、いろんなアイデアを出しながら進めてほしい	南信州
【施策展開３】 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用		
123	リニアや三遠南信自動車道の開通はチャンスであり、農業や観光、食の３つを組み合わせ、農業とプラスして楽しめるものを今から作っておき、ＰＲしていく必要がある	南信州
124	棚田で交流を行い、都会の人に喜んでもらっている例もある。食に喜びを感じ、観光にも結び付ければ良い	南信州
125	地域で暮らす人々の生活や考えが大きく変わってきているが、住民主体の進め方が重要	南信州
126	国際的に日本の観光市場は広がっている。海外の人は日本、信州の自然・農業に期待しているので、誇りをもって信州農業を推進していって欲しい	北信